Be the Humane Impact for Japan!

Spay Vets Japan

Times

2023.4
創刊号

■ごあいさつ
■活動内容のご紹介
■開業医アンケート調査の結果報告
■WVSトレーニングセンター渡航レポート
■会員獣医師の地域猫活動体験談

一般社団法人Spay Vets Japan
スペイベッツジャパン

〒581-0014 大阪府八尾市中田４丁目136-3
Email: info@spayvetsjapan.org

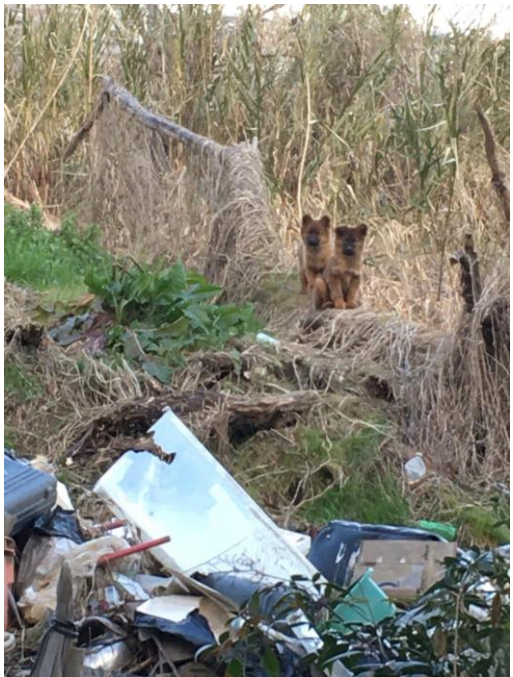
https://spayvetsjapan.org

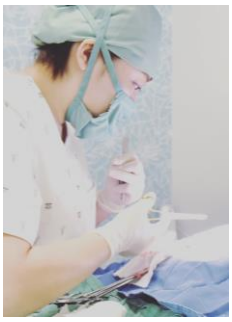
初めまして、私たちは獣医師の団体、
Spay Vets Japan（スペイベッツジャパン）です。

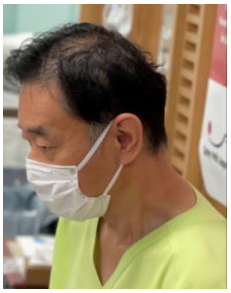
私たちの想いは一つ。

家なき犬猫達を救うために
獣医師ができることやるべきことを
本気で考え、実行したい。

現代の日本には、適正な飼育環境のキャパシティを大きく上回る数の犬猫達が存在します。その結果、行き場のない沢山の命達が亡くなっています。それは殺処分だけではありません。数字に表れない殺処分の裏側にこそ、人知れず飢え苦しみ、亡くなる多くの命があります。人の住環境や野生動物を脅かし、害とされてしまう命があります。こうした行き場のない命を救うことも、私達獣医師の大きな使命だと考えます。



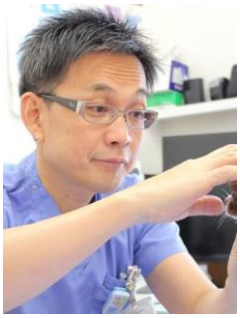




どうすれば救えるのか？
その答えは不妊去勢手術の
徹底にあります。

行き場のない命を未然に防ぐことが、今私達獣医師がやるべき最大の使命です。
それには一獣医師・一事業所だけが行動するのではなく、臨床獣医師・行政獣医師などの垣根を越えて、獣医師皆が一丸となり団結する必要があるのです。
手を取り合い、一歩を踏み出すことで、大きく未来を変えることができると私たちは信じています。
皆様のご賛同・ご協力を心よりお願い申し上げます。

代表理事：橋本恵莉子



●ポジション・ステートメントと活動内容

不妊去勢手術の遅れによる望まぬ出産を防ぐために、
私たちは以下の方針を支持し、活動しています。

１　飼い犬・飼い猫に不妊去勢手術を徹底するよう獣医師・飼い主・保護活動家・行政を含めた犬猫に関わる全ての人々に組織的に働きかける。

２　猫では、野良猫・保護猫・飼い猫に関わらず、性成熟期前遅くとも5ヶ月齢までの不妊去勢手術を強く推奨する。犬についての手術適正時期については研究を重ね、当会で議論し、方針を打ち立てていく。

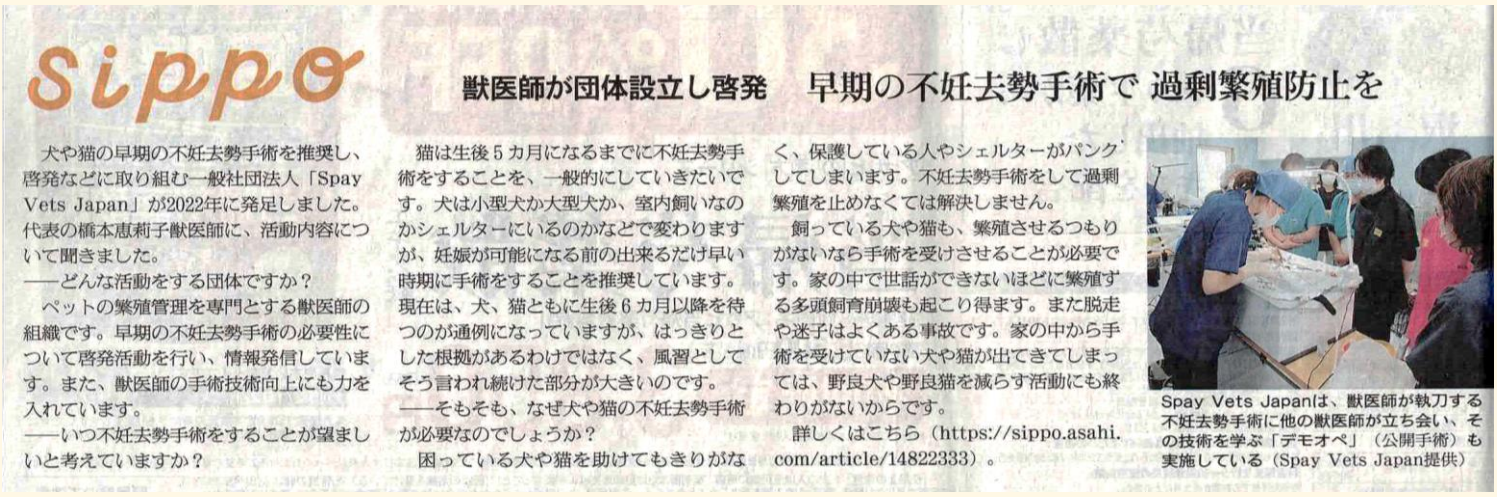
３　原則として、犬猫共に譲渡前不妊去勢手術100％を常に目指す。それを実現させるため、犬猫共に性成熟期前の可能な限り早期の段階で不妊去勢手術を行うことを推奨し、実施する。

以上の方針に基づき、獣医師への賛同と実施を呼びかけるため、

・根拠となる文献紹介
・早期不妊去勢手術を含む、不妊去勢手術に関する技術交流・情報交流
・根拠となる独自調査の実施と公開
・手術手技トレーニングプログラムの構築

など多岐にわたる活動を行うほか、会員獣医師のプラットホームとしての役割を担います。

▼2023年２月１３日㈪の朝日新聞（夕刊）にて紹介されました。



sippo

獣医師が団体設立し啓発　早期の不妊去勢手術で 過剰繁殖防止を

犬や猫の早期の不妊去勢手術を推奨し、啓発などに取り組む一般社団法人「Spay Vets Japan」が2022年に発足しました。代表の橋本恵莉子獣医師に、活動内容について聞きました。

――どんな活動をする団体ですか？

ペットの繁殖管理を専門とする獣医師の組織です。早期の不妊去勢手術の必要性について啓発活動を行い、情報発信しています。また、獣医師の手術技術向上にも力を入れています。

――いつ不妊去勢手術をすることが望ましいと考えていますか？

猫は生後５カ月になるまでに不妊去勢手術をすることを、一般的にしていきたいです。犬は小型犬か大型犬か、室内飼いなのかシェルターにいるのかなどで変わりますが、妊娠が可能になる前の出来るだけ早い時期に手術をすることを推奨しています。現在は、犬、猫ともに生後６カ月以降を待つのが通例になっていますが、はっきりとした根拠があるわけではなく、風習としてそう言われ続けた部分が大きいのです。

――そもそも、なぜ犬や猫の不妊去勢手術が必要なのでしょうか？

困っている犬や猫を助けてもきりがなく、保護している人やシェルターがパンクしてしまいます。不妊去勢手術をして過剰繁殖を止めなくては解決しません。

飼っている犬や猫も、繁殖させるつもりがないなら手術を受けさせることが必要です。家の中で世話ができないほどに繁殖する多頭飼育崩壊も起こり得ます。また脱走や迷子はよくある事故です。家の中から手術を受けていない犬や猫が出てきてしまっては、野良犬や野良猫を減らす活動にも終わりがないからです。

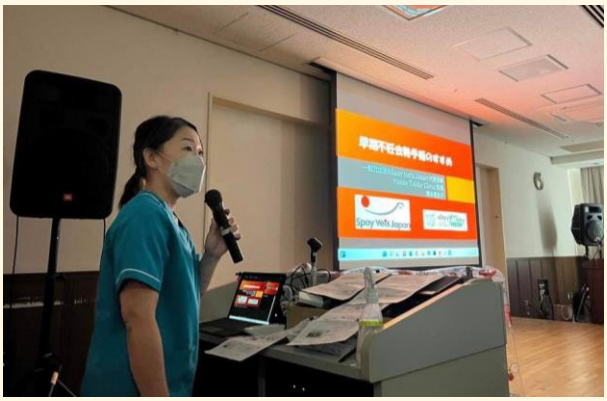
詳しくはこちら（https://sippo.asahi.com/article/14822333）。

Spay Vets Japanは、獣医師が執刀する不妊去勢手術に他の獣医師が立ち会い、その技術を学ぶ「デモオペ」（公開手術）も実施している（Spay Vets Japan提供）

●デモオペ（手術を囲んでの勉強会）

立場の違いはあれど、それぞれの垣根を超えて意見を交わすことで、大きな発見が生まれます。普段、動物の診療を「個」として診る先生も、改めて「群」として動物を診る獣医師の在り方を知っていただければ、新しい見え方が開けます。様々な立ち位置での獣医師の役割を知ったうえで、動物福祉に貢献する自分という獣医師がどうあるべきか、改めて考える機会となります。そしてそれを、参加者誰もが自身のアップデートと繋げることができれば、将来的に大きな大きな実りをもたらすことでしょう。
Spay Vets Japanでは、2022年大阪と岡山で3回のデモオペを行いました。

●獣医師へ、市民に向けての講演・啓発活動



獣医師へ、一般市民の方へ、ボランティアの皆様へ、不妊去勢手術の徹底を呼び掛ける講演を行っています。獣医師へは、猫では5ヶ月齢までに不妊去勢手術を行う必要性と医学的なメリットをお話し、議論の時間を設けています。先生方の診療へ早期不妊去勢手術の導入を検討していただく機会になればと考えています。ボランティアの皆様へは、不妊去勢手術を行う前に譲渡することのリスク（譲渡先で予期しない繁殖が起きたり、手術前に脱走し野良猫・野良犬を作る原因になってしまう事例があります）を説明し、譲渡前手術の徹底を呼び掛けています。

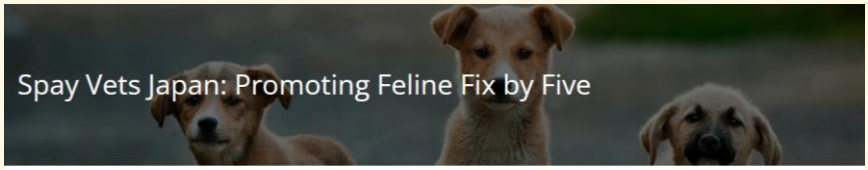
●世界の活動家との交流

当会では、世界の活動家や獣医師団体の活動にも目を向け、積極的に交流することで、国際的な視野を持って日本の動物福祉の向上に還元したいと考えています。現在、後述するWVS（Worldwide Veterinary Service）、Feline Fix by Five、United Spay Allianceとの交流があります。また、当会の主張を根拠付けるもの、記事の内容を支持するもの、または議論の余地があるが興味深いものと判断した海外の学術情報を和訳読解し、ホームページ等で公開しています。

←米国で早期不妊去勢手術を広く普及させた革新的運動です。代表者にも運動の軌跡を伺い、参考にさせていただいています。

https://www.unitedspayalliance.org/feline-fix-by-five/

https://www.unitedspayalliance.org/



Spayにまつわるスペシャリストが集い、全米だけでなく世界中のホームレスの犬猫をゼロにするために、飼い主へ、獣医師へ、活動家へ、ネットワーク作りや情報発信など多岐にわたる不妊去勢手術を推進する活動を行っています。当会のことが、日本の活動団体として他国の団体に並びブログにて紹介されました。→

About Spay Vets Japan

By Eriko Hashimoto DVM, Founder & CEJ Spay Vets Japan

Spay Vets Japan is a nonprofit veterinary organization that promotes early spay/neuter for dogs and cats. Formed in February 2022, our mission is to alleviate animal suffering alongside various related social issues caused primarily by pet overpopulation.

At one time I was a locum vet at a private hospital, where spaying and neutering were left to the owner's discretion and surgery before six months was never an option. But I realized that this practice was an ill-considered idea and one of the causes of overbreeding. I am lucky enough to recognize the problem of pet overpopulation and now as a veterinarian, I am dedicated to specializing in

●そのほか、多岐にわたり活動中

デモオペの他にも、交流会やオンラインでの意見交換会、グループLINEやメールでの情報交換など、会員同士で活発な情報交換や交流を行う場を設けています。獣医師同士の交流で、お互いに普段の業務のアップデートや活動への志気を高める機会となっています。

▲安易譲渡の見直しを呼び掛ける広報物を制作・配布しています。

■Spay Vets Japan独自調査レポート

全国の動物病院に聞いた！！犬猫の不妊去勢手術推奨時期の実態調査について

長年にわたり、獣医師は犬猫の不妊去勢手術は個体が十分成熟しきってから（繁殖適齢期に達してからもしくはその直前に）行うことを推奨してきました。一方で、近年海外では猫の不妊去勢手術については5ヶ月齢以下で行うことが新常識になりつつあることを発表しています。猫が性成熟期を迎えるまで手術を延期させる根拠を科学的に証明した文献はなく、猫の繁殖制限を早期（性成熟前）に実施することで、猫の過剰繁殖が引き起こす社会問題を根本的に解決する動きが加速しているのです。

そこでSVJでは、日本の動物病院が推奨する犬猫の不妊去勢手術時期の現状について、実態を調査すべく、以下の方法により調査を行いました。

調査方法：

⑴　調査対象施設の抽出

犬猫の不妊去勢手術推奨時期について、全国的な動向を図るため、iタウンページに掲載のあるおよそ1万件の動物病院のうち、統計学的に必要とされる有効回答件数300件を得るため、各都道府県より均等に621施設をランダムに抽出（※）した。

（※）病院名から明らかに犬猫を対象としていないと推定される施設や往診専門病院、夜間救急病院等を除く。

⑵　アンケート調査方法

SVJ有志会員による電話での聞き取り調査及び往復はがきによる文書調査。

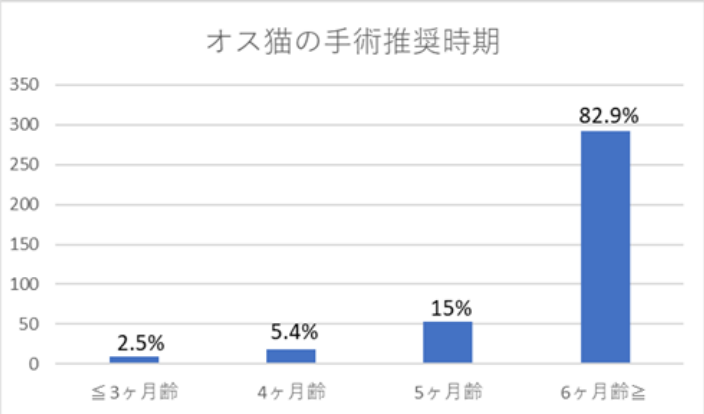
⑶　期間

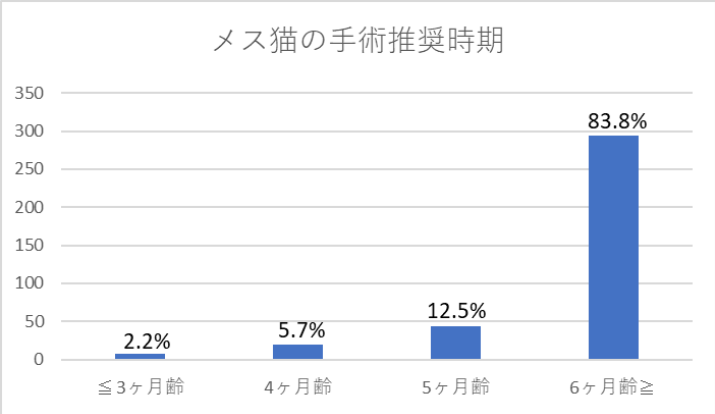
2022年8月～2023年1月末

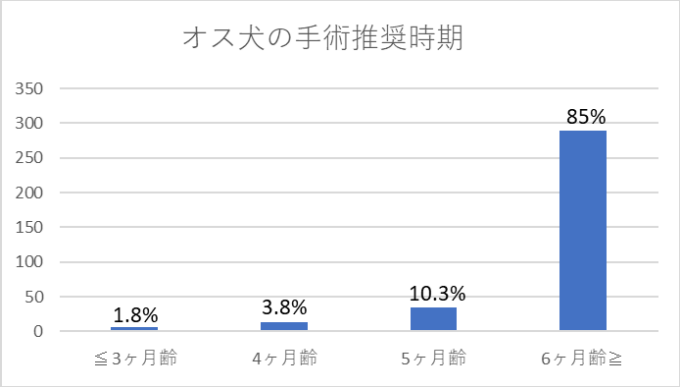
調査結果：

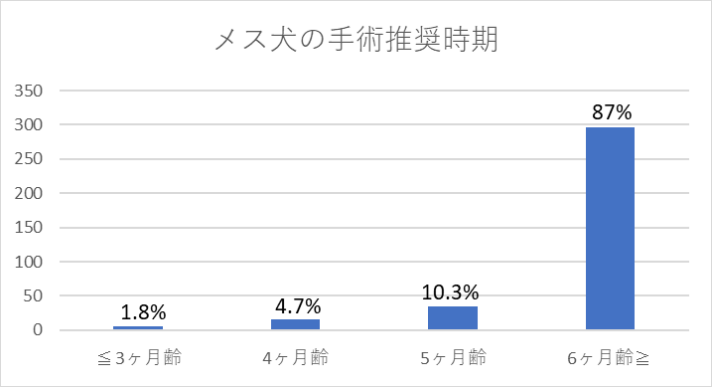
無効回答件数（廃業・休診、回答拒否、不通・無回答施設）：269件（無回答率43.3%）

有効回答件数：352件（回答率56.7%）









6ヶ月齢以上での手術を推奨する主な意見：

【猫】

・オス猫で、幼すぎると尿道の形成に影響するため、早期ではやらない。
・体重2kg以上からでないと実施しない。
・体格や気管チューブが入るかによって判断する。
・幼いと麻酔に耐えられないため6ヶ月齢以上を必須とする。
・早期で実施するメリットを感じない。
・一度発情させてから手術を実施する。
・4・5ヶ月齢での発情を見たことがない。
・早期での手術を要望されることがない。
・早期不妊手術に興味はある。4ヶ月齢未満での文献を知りたい。4ヶ月齢未満ではオペしたことがない。

【犬】

・オス犬で、幼すぎると尿道やペニスの形成に影響するため、早期ではやらない。
・大型犬は1年前後で成長板が閉鎖してから実施。
・一度発情させてから手術を実施する。
・幼いと麻酔に耐えられないため、6ヶ月以上を必須とする。
・不妊去勢手術と同時に乳歯の抜歯を希望される事が多いので、ある程度成熟してから手術を勧めている。
・早期で実施するメリットを感じない。
・早期での手術を要望されることがない。
・発情に伴う問題行動があれば手術を早める場合もあるが、基本は6ヶ月齢以降から。

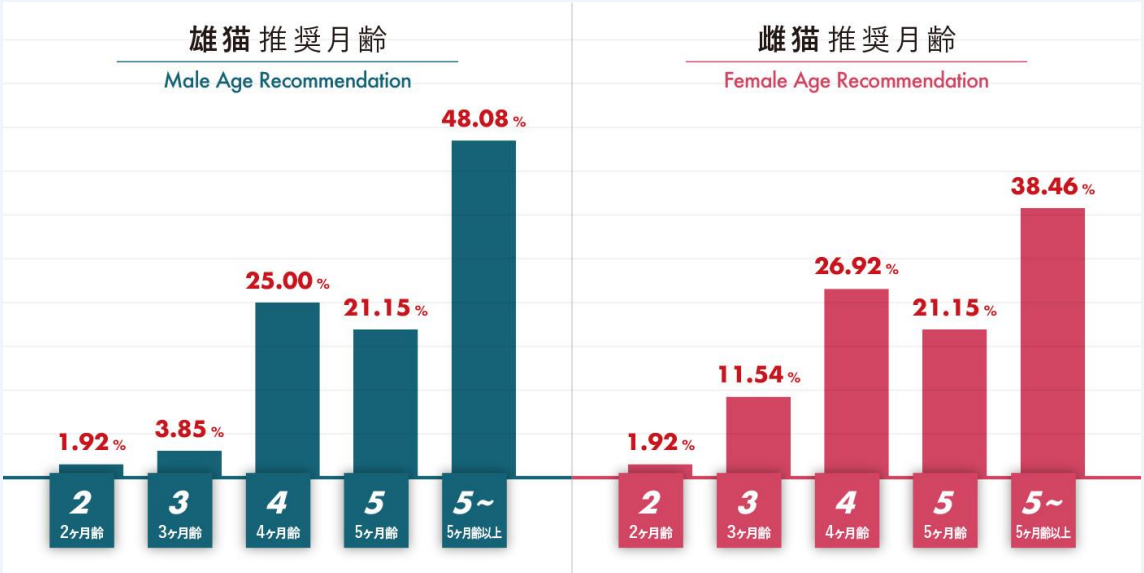
考察：

調査の結果、84.7%の動物病院が犬猫共に6ヶ月齢以降での不妊去勢手術を推奨していることが分かりました。早期（5ヶ月齢以下）で手術を実施する動物病院からは、「過剰繁殖を防止するため」「野良猫の場合のみ早期で実施することがある」「大型犬で、大きくなりそうなら早期で実施する」等の意見が寄せられました。一方で、大半は6ヶ月齢以降での手術を推奨し、その理由の多くは発育・形成不全や術中の麻酔への懸念により個体の成長が止まった時期を目安に行うとのことでした。

海外に限らず日本でも、無責任な飼い主による遺棄や多頭飼育問題につながる不適正飼育、飼い犬、飼い猫の予期せぬ妊娠や出産が、行き場のない野良猫や野犬を生み出し、地域社会に様々な影響をもたらしています。犬猫の不妊去勢手術の推奨時期については、近年様々な見解が示されているところですが、動物の飼育環境や所有者の有無、発育状況に応じて、臨床獣医師はこれからも幅広い視野で慎重に議論することが重要であると考えます。

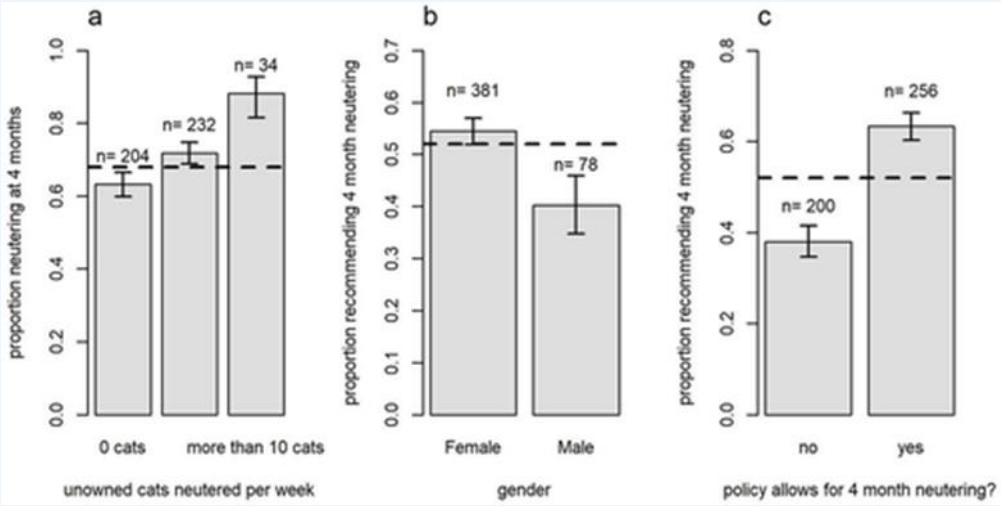
参考：

1. Feline Sterilization at 5 months accepted as new normal (March 4, 2022 Philip A. Bushby, DVM, DACVS著)
https://www.dvm360.com



2021年初期にアメリカで行われた全国調査によると、61%の獣医師がメス猫の卵巣子宮全摘出術を5ヶ月齢以下で、51%の獣医師がオス猫の去勢手術を5ヶ月齢以下で推奨していることが分かりました。

2. Contrasting practices and opinions of UK-based veterinary surgeons around neutering cats at four months old
Contrasting practices and opinions of UK-based veterinary surgeons around neutering cats at four months old - PubMed (nih.gov)



イギリスでは、繁殖適齢期になってから不妊去勢手術が実施されるケースが多いですが、2020年にイギリスの獣医師483名を対象に行われたオンライン調査によると、ほぼ70%の獣医師が4ヶ月齢で猫の不妊去勢手術を実施することを望んでいると回答しており、その内のおよそ半数が、病院の方針が許すなら4ヶ月齢での不妊去勢手術を飼い主に推奨したい考えを示していました。これら意見は、獣医師の性別、病院の方針、日常的に飼い主のいない猫を手術しているか、等の因子に関連があることも分かりました。

3. Deconstructing the spay/neuter debate（Dr. Philip A. Bushby, DVM, MS,DACVS）
Deconstructing the spay/neuter debate | HumanePro by The Humane Society of the United States

犬猫の不妊去勢手術の推奨時期について議論した記事です。不妊去勢手術に関しては、これまでも手術によるメリット、デメリットについて議論がなされてきました。しかしこの記事では、ごく一部のデメリットばかりを強調するのではなく、その動物の置かれている環境も鑑みて、手術時期を判断するべきだとしています。これまでに明らかになっている最新の医療知識も熟知したうえで、筆者のBushby教授は、動物の置かれている状況ごとの推奨手術適齢期を打ち立てました。

以下、要約の和訳より一部抜粋～
「不妊去勢手術を行うか否かの判断は、ごく一部の疾病との関係性だけに着目するのではなく、動物の健康・寿命を総合的に鑑みた上で議論されなくてはなりません。
不妊去勢手術を行うかどうか、またその時期についての判断は、まず第一に、その動物の生活環境（飼われているか否か）に基づいて行わなければなりません。そして第二に、繁殖環境と健康状態、寿命との関係性について既に明らかになっている見解を参考にして行わなければなりません。飼い犬については、犬種・繁殖環境・手術の目的・最新医療知識を考慮に入れた情報を飼い主に提供した上で、判断を仰がなければなりません。

多くの犬種で、初回発情前に不妊手術を行えば乳腺腫瘍の予防効果が得られ、これは、乳腺腫瘍以外の腫瘍や整形外科疾患の潜在的な発症リスクをはるかに上回るメリットがあります。現在判明していることを基にした推奨事項は以下の通りです。

不妊去勢手術の影響については、まだ解明されていないことも多く、常に新しい情報を仕入れ、場合によっては認識を改めていく必要もあります。それと同時に、新しい情報に対しては、それが研究データに基づく妥当なものであるかどうか、厳しい目をもって評価する積極的な姿勢が求められます。

■本記事の全文をホームページに掲載しています。是非ご覧ください。

実際、猫は４ヶ月齢・５ヶ月齢でも発情/妊娠します

▲会員の病院で確認された４ヶ月齢での発情

今回のアンケート調査で日本の84.7%の動物病院が犬猫共に6ヶ月齢以降での不妊去勢手術を推奨していることが分かりました。発情・妊娠のリスクを抱えた多くの4・5ヶ月齢の猫が、不妊去勢手術を待っていることが分かります。私達は、この「待ち時間」が望まぬ出産のリスクだと考えています。では、実際どれほどのリスクがあるのでしょうか？

検証を行うため、当会では2022年7月より4・5・6ヶ月齢の猫で、不妊手術時に実際に発情または妊娠が認められる個体数の調査に乗り出しました。現在、執刀にあたる会員獣医師の協力の元、調査を継続しています。次号の会報誌で、その調査結果、今回のアンケート調査結果を照らし合わせ、日本の不妊去勢手術の推奨時期についての是非を、評価したいと思います。

実際にこんな例がありました

4ヶ月齢での妊娠実例:8/18手術時に5ヶ月26日齢の飼い猫さん、胎齢5週齢の胎児2匹を妊娠していました。4ヶ月21日で妊娠した計算になります。

本例は、飼い主宅で産まれたため誕生日を把握。完全室内飼いにはできず、普段から家と外を行き来している。おそらく、外出時に妊娠したのだろうとのことでした。まだ小さいから避妊手術は早いかな、と思っておられた中での妊娠でした。

（2022/8/18堕胎手術HappyTabbyClinic（大阪府））

猫の不妊手術における、未発情子宮VS発情子宮

発情前の子宮では、上記の理由から手術時間が短縮でき、幼齢では使用薬品の量も少ないのでコストも抑えられます。猫の幼齢個体の手術における合併症は報告されておらず、術後の回復が早いです。

一方発情子宮では、上記理由から手術時間が長くなることがあり、その分個体への負担も増えます。早期不妊手術の経験がないという先生も、1度、3ヶ月齢・4ヶ月齢の手術を試してください。きっと、手術のやりやすさを実感していただけます。

Dr.大門の WVS 訪問レポート

WORLDWIDE VETERINARY SERVICE

犬猫の不妊去勢手術の普及には、執刀にあたる獣医師の技術向上が必須です。Spay Vets Japanではどの獣医師にも手術トレーニングが受けられる機会を作りたいと、トレーニングプログラムの構築に乗り出しました。

そこでトレーニングのノウハウを学ぶために、当会理事で技術部長の大門獣医師が2023年1月、タイのチェンマイにあるWorldwide Veterinary Service(以下WVS)のInternational Training Center(以下ITC)へ行ってまいりました！

■WVSとは？

WVSとは、イギリスを拠点とする動物を支援する国際NGOです。

WVSが展開するタイやインドのITCでは、世界中の若手獣医師や獣医学生に対し、主に犬の不妊去勢手術のトレーニングの場を提供しています。これらの地域では野良犬が溢れ、さらに狂犬病も蔓延していることから、人々の生活が常に危険に脅かされています。この問題を解決するにはTNVR(Trap-Neuter-Vaccine-Return)が有効であり、不妊去勢手術を安全に行える獣医師を育成していく必要性があります。WVSでは昨年740名以上の獣医師をトレーニングした実績があります。

トレーニングに加え、世界各国でのアウトリーチ活動や獣医学教育を充実させるためのオンラインプラットフォームの立ち上げにも携わり、狂犬病に関する啓蒙や飼い主への飼育責任論などの獣医療以外の一般に向けた教育、学術面においても、WVSは世界の最先端で動物の過剰繁殖問題に取り組んでいます。

■獣医師育成のシステム作りを目指して

動物の過剰繁殖は日本各地でも問題になっており、一日にたくさんの不妊去勢手術を安全かつスピーディーに行える獣医師の育成が急務となっています。しかし、日本にはそのような手法を獣医師にトレーニングできる場所がありません。

Spay Vets Japanでは、今後手術の担い手である若手獣医師を育成していくことにも力を入れるべく、技術部長の大門獣医師が2週間のトレーニングコースに参加してきました。

▲早期不妊去勢手術について講演する機会をいただきました。

■体系化されたトレーニングプログラム

今回トレーナーボランティアとして、WVSが長年培ってきた体系化されたトレーニングプログラムがどういったものなのか、日本でもトレーニングプログラムを作ることができないか、そんなことを学ぶために参加しました。

トレーニングセンターという名の通り、消毒や滅菌も厳格にされていて、術前から術中、術後に至るまで常に動物に配慮した疼痛管理、また術前には留置や気管挿管をして、麻酔中は5分毎のバイタルチェックを記録したりと、手術に不慣れな獣医師でも安心して執刀に集中できるよう麻酔の管理体制が徹底されていました。

術後も完全に覚醒するまで観察し、手術翌日には手術創に炎症や化膿がないか全頭チェックしてスコア化し、問題がなければ元の場所に戻すという獣医師や動物とっても安心安全が第一にある印象でした。野良犬だからといって妥協する部分は一つもありませんでした。

慣れない英語での指導も、参加者が混乱しないようWVSの手技に合わせることも最初は大変でしたが、最終日には参加者から落ち着いた指導に安心できたという言葉を頂いたり、コース期間中に早期不妊去勢手術の講義をさせて頂く機会があったのですが、講義終了後にすごく良かったと言ってくれた参加者もいて、大変ながらも充実した2週間を過ごす事ができました。

▲WVSの手技を確認する大門獣医師

▲現地スタッフの皆様とトレーニングコース参加者と

■トレーニングコースを終えて

参加者が安心してトレーニングを受けられるだけではなく、ボランティアで参加するトレーナーにとってもわかりやすいプロトコールが存在し、親切でいつでも助けてくれるWVSのタイ人獣医師やスタッフのサポートもあるので、英語が苦手な日本人でも安心してボランティアに参加しやすいのではと思います。またタイ人獣医師との知識や技術交流を通して、新たな発見もたくさんありました。

■WVS Information

https://wvs.org.uk/
Phone:
+44 (0)1725 557225
Address:
4 Castle Street
Cranborne, Dorset
BH21 5PZ, United Kingdom

2023年、トレーニングプログラムが本格始動！

今回研修で学んだWVSの体系化されたトレーニングプログラムを団体の理念に落とし込むことで、当会でも日本人獣医師向けのトレーニングシステムを構築し、若手獣医師が手術を学べる場を提供していきたいと考えています。そしてその前段階となる試験的トレーニングコースを2023年6月に開催予定で、9月にはトレーニングプログラムを本格稼働させたいと考えています！

将来的には、Spay Vets Japanとして日本人の獣医師に海外、日本を問わず外科手術を学べる場を提供し、そして海外の獣医師団体や大学等との国際交流を通した知識・技術向上に貢献する活動も進めていきたいと考えています。

当会が過剰繁殖問題を通して世界と日本を繋げる獣医師団体となり、日本の動物福祉の底上げに全力で取り組んでいきたいです！

技術部長/理事　:大門　みゆき

▲試験的トレーニングコースの実施会場は、Spay Vets Japanの事務所を置くHappy Tabby Clinic（大阪）を予定しています。

会員獣医師の地域猫活動体験談①

実際のTNR・地域猫活動事例について会員の実例を聴取し、効果的なTNRを模索します。
今回は、しんけん動物病院　松木信賢先生（長野県）のケースをご紹介致します。

●地域の環境（どういう土地・場所なのか）
住宅街と温泉旅館街が混在する地域
地区面積は24万8000平米（千曲市建設課からの回答）、
人口はおよそ1500人。

●事業開始時の状況（環境・発生しているトラブルなど）
温泉街にある公園を中心に猫が無秩序に繁殖し、
砂場や住宅の庭に糞尿被害が起きていた。
また繁殖に憂えた住民や隣町の住民が、
猫に給餌を行うものの、片付け、清掃のマナーを
守らない為に、猫に苦情を抱える住民とトラブルが
起きていた。

▲道路上に撒かれた餌やり

●取り組みのきっかけ
小中学校の育成会から通学路上に猫の糞で困っていると
自治会長に相談がくる。

●事業期間（令和2年4月1日～令和5年2月5日）

●事業開始前の事前調査で得られた、猫の生息頭数と手術済み猫の確率（手術達成率）
各区長の証言を総合すると、50頭程という話であった。餌を与える住民の厚意で、不妊化を施される猫はいるものの、事業を行ってから未手術猫の捕獲が大半であった事を思うと、数%にも満たなかった事が推定される。

●事業期間内に手術した猫の頭数（TNR またはTNHの内訳）と手術達成率
実際は、証言より大幅に多く。R5.2.5までで84頭の捕獲、手術を行った。現在でも、時たま隣接区からの流入で未手術猫の情報は上がるが。元々生息していた猫の手術は、100%終えたと言って良い。保護、譲渡の判断が必要な子猫、負傷猫の生息は見られなかった（怪我の治療の必要な猫は、ボランティアが一時的に保護し、養生した）。

●どういう人間が関わったか？：関係者の地域における立ち位置（市民ボランティア・町会長など）と地域猫活動における役割（捕獲・見守りなど）

上山田温泉自治会連合会会長と区長・・・情報収集、捕獲、手術補助
戸倉上山田温泉旅館組合組合員・・・手術補助
小中学校育成会父母・・・情報収集、捕獲、手術補助
住民・・・見守り、適正管理
市民ボランティア・・・情報収集、捕獲機貸し出し、捕獲アドバイス
千曲市は、猫不妊化補助金の支給と、適正飼育貼紙の印刷と掲示用ラミネート、観光局がホームページにて活動の広報を行う。管轄の長野保健所は、現地視察にて協力。

●事業開始からのタイムライン

問題発覚からTNR実施に至るまで2回の勉強会が行われた。
2019年7月19日　千曲ねこの会地域猫活動について説明　@定例区長会
2020年3月21日　千曲ねこの会＋松木先生勉強会　@定例区長会

地域猫活動の実績
（ 令和2年度 ）
第1回地域猫化手術　7月3日(金)～5日(日)　　※温泉自治会 実績10匹
第2回地域猫化手術　8月28日(金)～30日(日)※温泉自治会　実績10匹
第3回地域猫化手術9月18日(金)～20日(日)※ねこの会　実績　9匹
第4回地域猫化手術10月23日(金)～25日(日)　※自＋育成会　実績17匹
第5回地域猫化手術　11月2日(金)～4日(日)　※自＋旅館組合 実績13匹
第6回地域猫化手術令和2年3月5日(金)～7日(日)※温泉自治会　実績　6匹

（ 令和3年度 ）
第1回地域猫化手術　7月16日(金)～18日(日)　※温泉自治会　実績10匹
第2回地域猫化手術　10月15日(金)～16日(土) ※自＋育成会　実績2匹
地域猫についての講習会　6月13日　（千曲市民対象）

（令和4年度）
第1回地域猫化手術　7月8日(金)～9日(土)　※温泉自治会　実績6匹
第2回地域猫化手術　10月7日(金)～8日(土)※温泉自治会　捕獲0匹
捕獲漏れ対応予備日　令和5年2月4日(土)※ねこの会　捕獲0匹

●事業期間中の手術費用はどのよう捻出しましたか？

千曲市猫不妊化補助金（飼い主のいない猫オス3,500円、メス5,500円）、旅館組合や住民」からの寄付金、自治会費

●事業終了後から現在（令和5年2月5日現在）事業開始前と比べて改善したこと

猫トイレの設置、定時定点の適切なエサやりなどで猫の全数把握ができ、自治会で手術前、手術後の回覧（情報共有）したことで、猫に対する苦情が減った。また未手術の猫の情報を回覧で募ることで取りこぼしの数を減らすことにつながった。地域内で子猫の目撃情報がなくなり住民間で手術効果の実感が得られた。成猫が生息している状況なのでロードキルがほとんどなくなった。

▲「餌やり禁止」ではなく、皆で野良猫の管理を行うことを呼び掛ける街づくりへ

●事業期間を終えての回顧録（成功・失敗か。また何が結果に結びついたと思うのか）

猫の繁殖が日常当たり前になり、無関心でいた地域住民が、猫の問題を我が事と考える様に変化していった点は、大きな成功を収めたと思う。住民の中から少しずつ上がっていた猫の問題に取り組んでもらいたいという願いを、自治会長が汲み取り、市民ボランティアと情報を交換し。幾多の勉強会を重ねながら、区長、住民に取り組みの必要さを説き、合意を得た所が大きな転換点となった。また温泉街という特異な環境の中、様々な組織に関わらせた事が、我が事と捉えるようになった要因である。

当院の開院、市の補助金事業の整備、市民ボランティアが行政と事業としてこの問題に取り組む時期が重なった事も、住民活動を加速させた。

●現在の活動と今後の展望

行政（保健所、市町村）、ボランティアと共に地域の猫問題について猫の習性と対策（TNR、地域猫活動）の勉強会を定期的に行い、啓発に努めています。また日ごろのTNR、地域猫活動を行政、ボランティアと行うことで信頼関係が構築され、多頭飼育問題などの対応に役立っています。日ごろの関係を基礎に新たに福祉関係者とも多頭飼育に関わる動物愛護、福祉について相互理解を深めています。

福祉関係者と連携会議を設けて月に1回ケース検討を行っており、その知見を今後全県の関係者と共有できるように研修会を実施する予定です。

現在、多頭飼育問題解決に向けた公的支援はありませんが、動物の不妊化手術費用のみならず、飼育者宅の廃棄物処理費用、飼育者支援（生活自立支援、就労支援など）など解決に必要な資金についてどうあるべきか関係者間でまとめて県に提言できるような動きになりつつあります。

●新たに福祉関係者と連携が取れるようになったいきさつはどのようなものでしたか？

普段から、地域猫活動を推進している地域の市町村担当者とは、動物部局（保健所・ボランティア）との関係構築が進んでおりました。市町村担当者から福祉部局への情報共有・提供・協力の申し出をお願いし、速やかに連携することができました。

これには、社会問題として、多頭飼育問題がニュースなどで多く取り上げられるようになった背景から、環境省より多頭飼育対策ガイドラインが制定されたことが大きかったと思います。

それぞれの部署担当者が、連携することの重要性を正しく理解し、積極的に介入して下さいました。関われば関わるほど、どこか一つの部署のみでの対応は不可能だという認識も持てたと思います。

環境省ガイドラインには、①予防②発見③発見後対応④再発防止　と大まかに分けられております。繁殖制限と同じく、崩壊させないよう①予防　こちらが重要です。

高齢者や生活困窮者、支援が必要と思われる方が当事者となるケースが多いため、その方たちに一番近い立ち位置におられる福祉関係者との連携は必要不可欠で、事案を早期に発見できるようなシステムも現在考えています。

▲獣医師が積極的に行政・ボランティアと交流し信頼を築くことが、スムーズな連携と問題解決に結びつく

会員獣医師募集

AVMA（米国獣医師会）が、すべての猫の５ヶ月齢までの不妊去勢手術（早期不妊手術）を公式推奨（2017 年）に転換したことをご存知ですか？当会では、活動に賛同していただける獣医師を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

ご寄付のお願い

当会のミッションを果たすため、獣医師が最大限の活動を続けるには皆様からのサポートが必要です。何卒、ご支援・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

§お振込でのご支援

① 三井住友銀行　八尾支店　店番号 161　普通 2327086　一般社団法人 Spay Vets Japan

② 郵便振替　口座番号 00990-7-284710　一般社団法人 Spay Vets Japan

§オンラインでのご支援

一般社団法人 Spay Vets Japan　のホームページ内ご寄付についてのページよりお進み下さい

Spay Vets Japan

お問い合わせ・連絡先

一般社団法人　Spay Vets Japan

〒581-0014　大阪府八尾市中田４丁目 136-3

Mail：　info@spayvetsjapan.org

facebook